

普及活動情勢報告（平成27年12月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

収量アップを目指して ～とさし環境制御技術研究会が勉強会を開催～



巡回ほ場の測定装置モニターに興味津々の参加者

11月に「とさし環境制御技術研究会」が新たに発足し、12月1日に初めての勉強会を開催しました。土佐市の会員および以前から交流のある春野地区の生産者ら（農家15名、関係機関11名）が参加し、炭酸ガス発生装置と環境測定装置を導入した土佐市のピーマンほ場を視察巡回しました。

メーカーからは測定装置の説明、農業改良普及課からはピーマンでの生育診断方法と生育バランスの推移について情報提供を行いました。参加者は炭酸ガスの施用方法、測定装置、細霧装置についての活発な質疑が交わされ、環境制御技術の理解を深めていこうという気運が高まりました。

研究会は今後も順次、同様の勉強会やメーカー講師を招いた講演会を予定しており、農業改良普及課は活動を支援していきます。

新たなキュウリの選果施設で産地の活性化を目指す。 ～JAとさしキュウリ選果ラインの完成～



稼働を始めた新たな選果ライン

この度、JAとさしに新しいキュウリ選果ラインが完成し、12月4日、合同出荷を行うJAコスモス伊野支所のキュウリ生産者を迎えて完成祝賀会が開催されました。この施設を整備するためには将来ビジョンを設定する必要もあり、農業改良普及課では今後のキュウリ産地をどうするか、所内や関係機関で協議を重ねてきました。その中で、他JA部会との合同出荷やCO₂施用による増収、更には部会員を増やすための「産地提案型担い手確保対策」等が計画されました。

今回、異なるJA間による合同出荷が果たされましたが、今後引き続きこれらの計画が具体化し、キュウリ産地が活性化するように、農業改良普及課は、支援を続けていく予定です。

今年の土佐文旦の出来栄は？ ～土佐文旦部会が果実分析を実施～



果実を搾汁するJA職員

JAとさし土佐文旦部会では、12月7、8日に農業振興センターで、収穫前の果実分析を実施しました。

農業改良普及課とJA等、関係機関が協力して、果実重や果径、果皮厚、糖度、酸度について調査しました。合計429果を分析した結果、果実の大きさは平年並みで、果実品質は平均糖度10.7%、酸度1.41%と、昨年より糖度が高く、順調に熟してきている傾向がみられました。

なお、今回の分析結果は、生産者へフィードバックするとともに、光センサー選果機の調整や、共同出荷場への持込順の調整等に活用されます。

全国の普及指導員がピーマンほ場で現地視察
～全国農業システム化研究会 I P M研修会が高知県で開催される～



現地検討会で熱心に質疑・観察を行う参加者

12月10～11日、全国農業システム化研究会のI P M研修会が開催され、普及指導員、関係機関、メーカーなどから約100名が参加しました。

室内検討会および現地検討会が行われ、農業改良普及課からは「高知県における施設園芸への土着天敵の活用事例」として土佐市での事例を発表し、現地検討会では宇佐地区のピーマンほ場および温存ハウスを視察研修しました。現地視察の参加者らは「これまでに使用した農薬は？」「どのように温存ハウスから天敵を移動させていますか？」等の活発な質疑が行われ、天敵やハウス内の状況、温存ハウスの状況を熱心に観察していました。

農業改良普及課では、今後も天敵調査や情報収集を通して生産者に新しい情報提供を行い、天敵利用のステップアップを図っていきます。

高石花卉部会青年部活動
～新規就農者勉強会～



青年部勉強会

12月17日、J Aとさし高石支所において、花卉部会青年部の勉強会を開催しました。対象者は、新規就農者5経営体で、経営、栽培技術の2部構成で行いました。

農業改良普及課からは、経営について、健全化を目指すため、自己資本を増やすのに活用できる農業施設等導入に係る事業や制度資金、栽培技術については、土壌肥料の基礎知識の指導を行いました。

また勉強会の中で、今後、就農5ヶ年の計画・実績書の作成、ユリの販売実績から見た栽培技術の見直し、土壌の簡易分析等を検討することを決めました。農業改良普及課は、これらの計画を自らのこととして実践できるよう、支援を続けていく予定です。